

〔源平盛衰記 四十一〕盛綱渡、藤戸兒島合戦附海佐介渡海事

同年○元暦元十八日○申三川守範頼モ、室ノ泊ニ有ケルガ、舟ヨリ上リ、同國○中備西河尻、藤戸ノ渡

ニ押寄テ陣取、源平海ヲ隔テ磬ヘタリ、海上四五町ニハ過ザリケリ○略中爰ニ佐々木三郎盛綱、夜

ニ入テ案ジケルハ、渡スベキ便ノアレバコソ、平家モ招ラメ、遠サハ遠シ、淵瀬ハシラズ、如何ハセ

ント思ケルガ、其邊ヲ走廻テ浦人ヲ一人語ビ寄テ、白鞘卷ヲ取セテ、ヤ殿向ノ島へ渡ス瀬ハ無カ、
教給ヘ悦ハ猶モ申サント云ヘバ、浦人答テ云、瀬ハ二ツ候、月頭ニハ東ガ瀬ニナリ候、是ヲバ大根
ハ渡ト申、月尻ニハ西ガ瀬ニ成候、是ヲバ藤戸ノ渡ト申、當時ハ西ヨソ瀬ニテ候ヘ、東西ノ瀬ノ間
六二町計、其瀬ノ廣ハ二段ハ侍ラシ、其内一所ハ深ク候ト云ケレバ、佐々木重テ、淺サ深サヲバ争
カ知ルベキト問ヘバ、浦人淺キ所ハ浪ノ音高ク侍ルト申ス、サラバ和殿ヲ深ク憑ム也、盛綱ヲ具
シテ、瀬踏シテ見セ給ヘト、懇ニ語ヒケレバ、彼男裸ニナリ先ニ立テ、佐々木ヲ具シテ渡リケリ、膝
三立所モアリ、腰ニ立所モアリ、深所ト覺ユル六、鬚鬚ヲヌエヌ、誠ニ中三段計ゾ深カリケル、向ノ
島ヘハ淺ク候也ト申テ、夫ヨリ返ル○下

〔萬葉集七 雜歌〕寄鳥

明日香川○七瀬之不行爾、住鳥毛意有社、波不立目、
〔萬葉集抄七〕な、せのよどにすむとりどは、をし鴨などにや○略中、つねには瀬と云は淺くして

せ、らぎには、なみたつをいひ、よど、は深くして、浪などもたゞ、ぬを云なればしたれば瀬といひよど、いふは、かはりてこそ侍るに、是はな、せのよど、びとつにいべり、しかれば瀬に
どりても、どかなるところをよめるにや、

〔和漢三才圖會六十八〕相本橋 在浦山舟見之中間

此川乃立山諸地獄所涌出熱水、與雪解流、其水速也如瀧、至末則分爲四十八瀬、部川